

令和3年(2021年)度 学校教育目標・評価の観点

令和3年度の重点目標

①学習における基礎基本の定着と探究力を身につけるための個に応じた指導体制と教育課程をつくる ②自らの判断と行動により充実した学校生活を創り出し、自らの力で自己実現ができるよう支援する ③地域や各教育機関と連携し、地域社会を担う人材としての資質を育むとともに、積極的な情報発信に努める ④保護者との連携を密にし、いじめ・暴力・体罰のない安心安全な学校づくりに努める
--

I 一人ひとりに応じた学力をつける (1) 基礎基本の徹底 (2) 指導方法の工夫・開発 (3) 話す力・読む力・書く力の重視 (4) 受験学力の向上 II 個性を大切に、「創造性」を培う (1) 進路を意識した学校生活の充実 (2) 基本的な生活習慣の確立と健康な心身の育成 (3) 一人ひとりの生徒との対話の重視 (4) 人権教育(いじめ・体罰等の防止)の一層の充実 III 地域に根差した開かれた学校づくりを進める (1) 授業の公開 (2) 学校評議員制度の活用 (3) 地域学を中心とした外部講師の活用

評価日(回答日):令和4年2月2日
 評価指標:A十分達成できていると考える Bおおむね達成できていると考える Cやや不十分であるとする D不十分である

領域	対象	評価項目	今年度 評価の観点
教育活動	教育課程	①学習集団の編成	1年生について学力に応じた学習集団の編成ができたか。
		②特色ある教育課程の編成	2年生について進路を見据えた適切なコースができたか。
			3年生について生徒の進路希望に応じた講座編成ができたか。
	学年		「総合的な探究・学習の時間」の内容の充実が図れたか。
	学習指導	①授業の工夫・改善	生徒にとって分かりやすい授業が実践できたか。
			教員が授業を互いに見合う機会や情報・意見交換の機会を持てたか。
			各教科において、生徒が学力を高めるにあたっての有効な指導方法の模索ができたか。
		②個に応じた指導	学校設定科目「プログレス」を中心に、生徒の学び直し・学び高めの有効な指導ができたか。
			生徒一人ひとりの理解度を把握した上で個別指導がなされ、学習意欲を喚起できたか。
			ポブラアカデミーと連携・協働し、学習意欲を喚起できたか。
			③体験的学習の充実
	④読書活動の啓発	年間の図書館の利用者数が増加するなど、生徒全体に読書活動を促す取り組みができたか。	
	生徒指導	①職員間の意識の統一	職員会議等の会合において、生徒指導の方針を全職員で共有し確認できたか。
		②生徒が安心して学べる環境づくり	学習環境を整備すると共に暴力や威圧、いじめの予防に努め、またそれらに適切に対処・指導できたか。
		③家庭との連携	家庭と連絡、連携をとりながら、生徒に関する諸課題に対処、指導することができたか。
		④生徒との対話	生徒と対話、コミュニケーションをとりながら、必要な指導をすることができたか。
	進路指導	①キャリア教育の推進	「夢高タイム」におけるインターンシップの実施等を中心に、将来を見据えての進路選択につながる指導ができたか。
		②進路目標の確立と進路実現	生徒一人ひとりが進路目標を持ち、自己の課題に意欲的に取り組むよう指導できたか。
	特別活動	①生徒会活動の推進	執行部が中心となり、生徒一人一人が参加できる活動となるよう指導できたか。
		②部活動の充実	加入の促進を図り、活発な活動や発表の場となるような環境を整えることができたか。
地域連携	①授業公開	地域、中学生、保護者等に対して蓼科高校の特色が理解できるような授業を公開することができたか。	
	②広報活動	フォトニュース、学校案内パンフレットやホームページを通じて、地域や中学生などに本校の魅力を発信することができたか。	
	③外部との連携	地域学など外部講師の活用を通じて、校外機関との連携が図れたか。	
研修	①職員研修の充実	課題に応じた職員研修の機会を設定できたか。	

中間評価	A	B	C	D	個人から出た反省・意見等
B	12%	76%	12%	0%	・1年生の学力幅に対応するのが例年より難しく感じた。学力の定着・伸長に引き続き努める。 ・習熟度別授業(国数英)について、各教科の特性も踏まえて再考が必要か。一斉に習熟しなくてもよい。
B	35%	65%	0%	0%	・コースでの学習に興味・関心をもち、その先の学習目標や進路実現への意識や意欲を育てたい。
B	33%	61%	6%	0%	・「発表が苦手、外に出たくない」ということで、進学文系コースを選択するというのはどうなのか。コース選択時、進路意識を持たせたい。より意欲的な学習集団に育てられるように粘り強く指導したい。
B	28%	67%	6%	0%	・コロナで地域イベントの予定変更・中止等があり、対応が大変だったと思われる。 ・本校なりの探究的な学び(地域、教科、学年目標等)と連動する学びにしていきたい。
B+	44%	56%	0%	0%	・親身な指導により学力の定着や伸長を図り、興味・関心をもって意欲的に学ぶ楽しさを伝えたい。 ・例えば学び直しに有効な目的を明確にするなどして、学習手段の1つとして学習用端末の活用を進められるといい。
B	11%	72%	17%	0%	・11月から12月の授業見学では、生徒の授業中の様子も分かり、有意義だった。 ・教科を超えて授業が見られればと感じる。
B	28%	72%	0%	0%	・模索は続く…。 ・勉強に意欲を持って生徒を伸ばすほうにもさらに力を入れたい。 ・タブレットやPPを使用するだけでなく、従来のより効果的だと間違いなく言える授業がしたい。
B	39%	50%	11%	0%	・プログレスは進度に個人差があり今のような体制でやっていると思うが、ドリル等立てて採点してもらう仕組みのせいか、立ち歩きや私語があり、学習に集中できる雰囲気を作るのが難しい面がある。 ・学習集団と同じく、講座分けのやり方については現状でよいのか検討を要する。
B	33%	61%	6%	0%	・個人の理解度の把握は概ねできているか、それに対する指導などが不十分かと思う。 ・昼休みや放課後、研究室に気軽に質問に訪れる生徒の姿、それに丁寧に対応する地道な取り組みは高く評価されている。
B	28%	67%	6%	0%	・多くの生徒がお世話になっている。ここでの少人数の学びを有効に活用している生徒が多い。 ・カラー刷りのポスターを作成し、教室掲示とともに学校説明会等を通じて中学生に配付、広報に努めた。
B+	44%	56%	0%	0%	・コロナの状況下であったが、可能な体験的な学習は行えた。創意工夫して、できることから豊かな学びにつなげられたと思う。
B	24%	76%	0%	0%	・読書案内や生徒会図書委員会企画のイベントなど、よく工夫されていて良い。
B	39%	50%	11%	0%	・身なり指導の程度(基準)を統一したほうが良い。 ・生徒指導係の先生方の負担が重くなってしまっている面があった。もっと協力できたと思う。集団指導体制。 ・全職員のベクトルが同じ方向に向いていると思う。
B	28%	72%	0%	0%	・予防という点では改善をしたい。 ・個別面談や各アンケートの回答を丁寧に見ていく雰囲気は大切にしていきたい。
A	56%	44%	0%	0%	・担任をはじめよく連携・連絡を取っている。
A	56%	39%	6%	0%	・いまいち理解を得られていないことがあった。 ・表現や言葉化が苦手な生徒の声にならない思いに寄り添って、さらに生徒理解を進めたい。
B	33%	56%	11%	0%	・時勢柄、十分にはできない。 ・コロナ禍でできなかったものもあるが、今年度は仕方がないと思う。 ・校外活動引率は、生徒の安全確保の観点から情報共有をしっかりと行いたい。
B	22%	78%	0%	0%	・校内企業説明会は良いと思う。他校生と一緒に学ぶ学校間連携は刺激になる。 ・おとなしい生徒が多い。3年間を通じて、前向きに取り組む意欲や積極性を身に付けさせたい。
B+	50%	50%	0%	0%	・コロナの状況により、計画どおりに行事を実施する難しさがあった。 ・代替の行事を企画し、生徒達が主体的に取り組んで、達成感を感じられるように取り組めたのでよかった。
B	17%	72%	11%	0%	・コロナ禍で活躍の場を作る難しさがあった。 ・部活加入率が少なく感じる。 ・部活動に関しては年々加入率が減っていると感じる。
A	61%	39%	0%	0%	・コロナの状況を見ながら、可能な形で公開できたと思う。
A	78%	22%	0%	0%	・外部への発信は積極的に良いと思う。 ・ブランドデザイン、3つの方針、新教育課程、ポブラアカデミー等、リニューアルし、カラー印刷で広報に努めた。
A	72%	28%	0%	0%	・地域おこし協力隊との連携が進んだ。オンラインで講師と繋いでの双方向で授業するなど、コロナの影響下にあっても、学びを充実できた。
B	11%	78%	11%	0%	・GIGAスクールサポーターによる研修を8回ほど実施し、研修後も多くの職員が残る個別に指導を受け有意義な研修だった。 ・もっとICTの研修をしたほうが良いと思う。一人一台端末にするにあたって実践例など。 ・ロイロノート・ICT先進校の学校視察を行い、学ぶことが多々あった。本校なりの有効活用を目指す。